(100)輔仁大學碩士班招生考試試題	考試日期：100 年 3 月 18 日第 3 節
	本試題共 3 頁 (本頁為第 1 頁)

科目：日文測驗　　系所組：跨文化研究所翻譯學碩士班中日組

注意事項：

1. 解答は、試験専用の解答用紙に記入してください。問題用紙には答えないよう注意してください。
2. 解答用紙の１ページ目に、下のように願書提出時に記入した選択言語名を書いてください。（A言語：_____語　B言語：_____語）
3. それぞれの問題にはすべて日本語で解答してください。翻訳ではありませんので、注意してください。

試験時間は 90 分です。下記の各問題の内容や配点を確認してから始めてください。

問題１　下の二つの文章を読み、それぞれの内容を文章１は 150 字程度、文章 2 は 200 字程度で要約してください。ただし固有名詞以外は違う表現で言い換え、箇条書きではなく短い文章としてまとめるようにしてください。（25 点×2＝50）

文章１

かつて、近未来の利器として誰もが想像したのは、テレビ電話時代の到来だった。ところが近未来は人々の期待を超越して、一足飛びにはるかにハンディーな携帯電話の時代を招来した。人類の叡知というか、飽くなき探究心と欲望は、あらゆる分野で、自らが描きだしたＳＦの世界に迫っているようだ。

最近話題になっているｉｐｓ細胞（万能細胞）や遺伝子組み替えなどをとってみても、その無限の可能性に胸躍らせる反面、得体の知れない影を感じる方も多いのではないだろうか。細胞組織の再生を可能にする技術は、人類をはじめ生物界にとって大いなる朗報であるし、遺伝子組み替えでもたらされるバイオ燃料や食糧増産は、我々に豊かな生活を保障してくれるだろう。

遺伝子組み替えにしぼってみても、その技術で生まれた生物は、すでにペットにしても食糧にしても市場に出まわっているようだし、伝染病を媒介する有害生物を無害化し、かつ絶滅させるプロセスも途上にあるといわれる。

しかしである。人類に最も有益な発明である火薬や原子力の歴史が物語るように、人類の繁栄を担う反面、混乱と滅亡をももたらしかねない影が存在することを、心しなければならない。

【日刊新民報「火の見やぐら」より】

文章２

「どこまで続くぬかるみぞ」状態なのが日本の借金財政だ。借金だらけで金がない。ないからまた借りる。こうして雪だるま式に借金が増え続けていけば、やがて破綻の時がくる。どこかで手を打たなければならないのだが、国政を託された側にはその〈当事者意識〉がない。

まさに〈ないないづくし〉で自転車操業を続けるこの連鎖を断ち切るには、大手術が必要なことは誰もが認めるところだろう。いずれ遅かれ早かれ増税は免れまい。なぜなら国債は決して〈打ち出の小槌〉ではないからだ。日本の国債は９割を自国民が買っているから安心というが、借金は借金であることに変わりはない。そこで民主党すらちらつかせざるを得なかった「消費税」が視野に入ることは時間の問題だろう。与謝野馨氏がその〈専門家〉として迎え入れられたことはその布石と見て間違いあるまいが、その与謝野氏が昨日のインタビューの中で「増税は政治の中で最も困難な部分。そのためには政治家自身が先に痛みを知る必要がある」と述べていたが、その通り。

まずは国会議員の定数削減を政治家自身がやってみせることだ。１人３億円もかかるといわれるこの経費を減らしてみせ、返す刀で〈金食い虫〉を徹底的に排除、整理することである。政治改革、行政改革、機構改革、その他改革と名の付く〈電車〉は止まってばかりいるが、これを動かさないことには誰も電車賃を払わない。まずは猫の首に誰が鈴をつけるかが注目されるが、１人としてその勇気がなく、運転席から降りてしまったら、この電車は暴走したあげくに脱線、転覆し、車内は地獄図絵となるに決まっている。【東海新報「世迷言」より】

問題２　次の文章の（　　）に適切な言葉を入れなさい。(2点×15＝30点)

少し加えるだけで磁石の力を強めたり、光を出したり、レアアース（希土類）はまるで魔法の（1）元素だ。

その魔法は、ハイブリッドカーのモーターやさまざまな電子部品など、日本が得意とするハイテク製品に欠かせない。(2) 困ったことに量が限られ、また主要な産出国である中国が輸出を制限し始め、価格が急騰している。天然資源が乏しい日本に（3）、深刻な問題だ。

もし、地球上で最もありふれた元素である鉄で、その魔法を実現できたらどうだろう。

それこそ夢のような話だが、決して夢（4）かもしれない。

科学者たちが「元素戦略」と（5）打って、元素をとことん研究することで、新たな機能を引き出したり、希少な元素の代替をしたりする研究を進めようとしている。文部科学省、経済産業省なども（6）し、３月にはシンポジウムが開かれる。

大いに進めてほしい。決してやさしくはないが、困難（7）こそ挑戦したいという研究者もいるはずだ。

資源の制約は希少元素に（8）。

たとえば、植物に必須の３元素である窒素、リン酸、カリウムのうち、空気中の窒素を使って工場で肥料にできる窒素を除けば、資源はやはり限られている。とりわけリン酸については、中国が原料となるリン鉱石の輸出を制限し始めている。

液晶パネルに欠かせないインジウムなどのレアメタル（希少金属）も、むろん資源は限られている。銅などのもっとありふれた元素も代替が難しく、盗難が（9）事態になっている。

こうした材料をめぐる技術は、産業界も含めて日本のお家芸だ。たとえばハイブリッドカーにも欠かせない、レアアースであるネオジムを使った強力な磁石は１９８０年代、住友特殊金属（当時）の佐川真人さんが世界に先駆けて（10）した。

細野秀雄・東工大教授は、鉄を使って超伝導物質を開発し、世界的に注目されている。

しかし、（11）とはしていられない。物質・材料分野の重要論文の数では昨年、中国に抜かれてしまった。

元素戦略は、日本の（12）を生かしてさらに飛躍しようと、中村栄一・東大教授が２００４年に提案した。

大気中の窒素を肥料にする技術は１９世紀末、「窒素肥料が足りなくなったら餓死者が出る。化学者は空気中の窒素を利用できるように（13）だ」と英国の化学者が呼びかけた。

東工大の細野さんは「意欲のある若い研究者にぜひ挑戦してほしい」という。地球の資源が有限であることを考えれば、元素をとことん（14）研究は人類にとって重要だ。資源小国の日本から、この花を大きく（15）たい。 【朝日新聞「社説」より】

問題３　次の文章を読み、文章の結論の部分を150～200字程度で書いてください。文章は中日新聞「窮地の大相撲　この勝負に「次」はない」です。（20点×1＝20点）

八百長が白日の下にさらされ、春場所が中止となった。大相撲はかつてない窮地に追い込まれている。国民の貴重な宝を救うため、解体的な大改革に踏み出す時が来たようだ。

野球賭博事件の捜査から浮上した八百長問題は、もはや「疑惑」ではない。既に三人の親方、力士が関与を認めている。これまではうやむやのままだった最大の暗部が、明白な事実となって突きつけられたのだ。

これによって三月の春場所の中止が決まった。不祥事では史上初の本場所中止。無期限中止の可能性さえ出てきている。長い伝統を断ち切らねばならないところまで追い詰められたということだ。

本場所中止は衝撃的だが、当然とも言わねばならない。つくりものでない、白熱の土俵があってこその大相撲である。以前から指摘されてきているとはいえ、八百長行為が日常的に行われていたのがとうとう明らかになった以上、場所を開くわけにはいかない。

全容を解明し、厳正な処分を行い、そのすべてを国民の前に提示する。まずはそれを急がねばならない。過去にさかのぼっての調査も、可能な限り行うべきだろう。場所再開を急いではいけない。もし日本相撲協会が中途半端な調査や処分で幕引きをはかろうとすれば、その時点で大相撲は消滅に向かうことになる。不誠実な姿勢が少しでも見えれば、今度こそ多くのファンが相撲界を見捨てるに違いないからだ。

そして徹底調査の一方では、大相撲の構造そのものの抜本的改革を本格的に開始しなければならない。「ガバナンスの整備に関する独立委員会」でも検討が行われてきたが、核心部分に深く切り込まなければ何も変わらない。すなわち、現行の部屋制度や年寄名跡のあり方についても、画期的な大改革に踏み出す覚悟が必要なのだ。いったん解体して、つくり直す。ここで求められているのはそういう姿勢である。

※ 注意：1.考生須在「彌封答案卷」上作答。
2.本試題紙空白部份可當稿紙使用。
3.考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。